



総合教育センターだより

125号 平成31年3月発行

山梨県総合教育センター

「・・・教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、・・・」

山梨県総合教育センター 所長 斉木邦彦

学校教育は全人教育であると言われる。子供を預かる学校の先生方の具体的な指導の場面は多岐にわたり、それぞれの場面の指導において専門的な知識や技術が求められます。同様に、学校教育を支援する本センターの業務も非常に幅広くなっています。

学校の研究活動を支援する形の中で授業改善がより効果的に進められることを願い、指導主事が積極的に学校を訪問しています。全国学力・学習状況調査の実施と結果分析、それを踏まえた授業改善の提案も行っています。また、知識や技術の習得、教育課題の理解だけでなく、自らの教員としての使命を先生方が再確認する機会になることを願って各種の研修会を計画し、実施しています。その他、増え続ける教育相談への対応、情報教育の推進、特別支援教育の充実、適応指導教室の運営等が本センターの重要な業務として挙げられます。

社会は大きく変化し続け、将来を見通すことが困難な時代となりました。学校には、子供たちに生きる力を育て、自信をもって社会に出て行けるよう導いていく責務があります。学校で先生方に励まされ、かけがえのない一人の人格を持つ者として大切にされた記憶はいつまでも子供たちの心の中に残り、生涯にわたってその人生を支えていくのだと思います。

「学び続ける教員」とは、目の前の対応に追われる日常にあっても、そこから一步引いたところで、人間や社会について、あるいは教育のあり方について、丁寧に考え続けている教員の姿だと思います。人間や社会に対する温かい眼差しと、教育に対する使命感を合わせ持つ先生。自分を信じ子供を信じ、ともに前を向いて歩もうとする先生。そんな先生方の姿から、子供たちは、未来を切り拓く力を手に入れるのだと思います。私たちセンターの所員は、自らの役割をしっかりと果たすことによって、学び続ける先生方の後押しをしたいと考えます。

(山梨県総合教育センター研究大会 創立70周年記念大会におけるあいさつより)

「山梨県総合教育センター研究大会 創立70周年記念大会」を終えて

調査研究課 課長 笹本 忠彦

2019年2月21日(木)「山梨県総合教育センター研究大会 創立70周年記念大会」が晴天の中、約300名の県内教育関係者にご参加いただき、無事開催することができました。ご協力いただいた皆様方に、感謝申し上げます。特に「70周年記念セレモニー」が、県教育委員会をはじめ、山梨大学関係者、歴代所長・副所長・次長等の皆様方のご臨席を賜り、厳粛な中で挙行できたことは、本センター職員にとって、この上ない経験となりました。

また、「学校現場の多忙化改善」を考慮したタイトな半日日程でしたが、「特別講演・ポスター発表・ラウンドテーブル」と滞りなく開催することができ、参加者全体で「教育研究への熱い思い」を分かち合える意義深い大会となりました。参加者からは、「学校現場の実践や校内研究につながる実践的な発表だった」「簡潔でわかりやすかった」「研究協力校希望を真剣に考えた」「校種を越えた意見交換は、山梨の教育課題を再認識する機会となった」等の感想を多数いただきました。来年度につながる貴重なご示唆もいただいておりますので、それらを来年度の調査研究や大会運営に生かしていきたいと思っております。

今後も、本センター全職員で「教育研究」「学校支援」「教育情報収集・提供」の機能連携による、「知の拠点」としてのシンクタンク機能の更なる充実を目指し、「新しい研究・研修(New style)」を推進していきたいと考えています。ご協力をお願いいたします。

●●● 研修指導課 ●●●

「教師としての高い志を持って、研修に励みましょう」

教育の本質は、教員と児童生徒との人格的なふれあいにあり、単なる知識・技術の伝達にとどまらないものなのです。そのため、公教育の担い手である私たちには、教職生活全体を通じて、絶えず研究と修養に努めることが求められています。社会の急激な進展の中で、資質能力の絶えざる刷新を行う「学び続ける教員」でなければならぬのです。そして、このような教師の姿は、子供たちの模範ともなります。これこそ、まさに「率先垂範」なのです。この意味で教育公務員である私たちには、一般の公務員に比べて、研修の必要性が高いのです。

県教育委員会では、教育公務員特例法の一部改正を受け、平成29年11月に「やまなし教員等育成指標」を策定し、先生方にお届けしました。山梨県総合教育センターでは、この育成指標を踏まえ、先生方のキャリアステージに応じた様々な研修会を企画・運営しています。各学校においては、学校経営目標に「学び続ける教師像」を明確に位置付け、校長先生の指導の下、全職員の共通理解を図る必要があります。その上で研修計画を作成し研修を進め、組織としてのチーム力を高めていくことが肝心です。



先生方におかれましては、子供たちが充実した生活を送り自己実現が図れるように、ぜひ教師としての高い志を持って、積極的に研修に励んでいただきたいと思います。

「全ては子供たちの未来のために！」

●●● 調査研究課 ●●●

2018年度を振り返って、大きく変わったことが2点挙げられます。第一に、「センター研究の体制」が、個人中心の研究からグループ研究になったことです。グループ・領域ごとに4つのチームに分かれ、研究協力校の校内研修会や授業改善を目指した研究授業に対して、支援を中心に行ってきました。特に新学習指導要領の全面实施に向けて自校の課題解決のため、研究協力校が先鞭をつけ、本センターとの連携を図ってきたことは、県下に範を示す機会になったと思われまます。

第二に、山梨大学との連携が強化されたことです。山梨大学教育学部附属教育実践総合センターとの連携・教育研究会では、アドバイザーとして本センター研究のサポートをしていただくだけでなく、研究協力校の研究授業等に対しても、指導助言をいただきました。また、ファシリテーター研修会の企画運営にも参画していただき、更には全国学力・学習状況調査の結果分析にも関与していただきました。本センター研究にとって、大きな力となったことは言うまでもありません。

2019年度も、本センターが、山梨教育の「知の拠点」としてシンクタンク機能を充実し、学校教育を支援していくために、本センターの全指導主事が4つの各研究グループ・領域ごとのチームに所属し、「センター全体での協同研究」を推進していきます。



創立70周年記念大会～ポスター発表～



配付資料



学力向上フォーラム

～授業改善を目指した「具体例紹介動画」～

●●● 相談支援部 ●●●



～子供や保護者、学校関係者への相談・支援活動を！～



私たちは、様々な課題を抱える幼児児童生徒の健やかな成長を願い、本人、保護者、学校と先生方を支援しています。

【教育相談】

学習・友達関係・いじめ・不登校等の教育や心の問題について相談を受け、その解決のための援助を行っています。児童生徒・保護者及び先生方を対象とした面接相談や電話相談（365日24時間体制で対応）、学校に向いて学習会やケースに関する相談を実施しています。また、いじめや不登校等の予防や解決に生かせる研修・研究を行い学校教育活動の支援に努めています。

【特別支援教育】

障害があったり、発達に課題があったりする幼児児童生徒の教育の充実と支援を行っています。本人、保護者及び先生方などを対象とした面接相談や電話相談、学校に向いての学習会を実施しています。また、特別支援教育の現場に役立つ実践的な研修・研究を行い学校教育活動の支援に努めています。

【適応指導教室】

平成30年度末で葦崎教室が閉所となりました。今後は、石和教室と都留教室の2か所のこすもす教室において、不登校児童生徒の心の居場所づくりを第一に考え、人間味のある温かい教室運営を基本に、自立に向けた適応指導や学習指導を行っていきます。各教室とも保護者や教職員からの相談にも応じています。

●●● 情報教育部 ●●●

主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICTの効果的活用とICT活用指導力の向上を目的とした情報教育に関する研修及び実践的研究に取り組んでいます。また、学校訪問等を通してICT活用を推進し、デジタル教材の収集・開発・発信を行っています。さらに、グループウェアや教育情報ネットワーク、校務処理システム等の運用管理や相談業務を行い、県内各学校の業務の効率化と教育の情報化を支援しています。

教育の情報化に向けて

授業におけるICTの効果的活用とICT活用指導力の向上を目的に、来年度も情報教育研修を20講座予定しています。また、校内研修や地区研究会において「ICTの具体的な活用方法やプログラミング教育、情報モラル、情報セキュリティなどについて勉強したい」という場合には、是非とも指導主事の学校訪問をご利用ください。今年度は21の学校や地区を訪問させていただきました。

さらに、指導法に関する情報提供、ICT機器やソフトウェア、ネットワーク等に関する相談支援も行っていますので、“ちょっとした疑問”がありましたら、お気軽にご相談ください。

やまなしeラーニング(YeL)について

研修の効率化と充実、受講の利便性を図ることを目的に、昨年度から「やまなしeラーニング(YeL)」の運用を始めました。これについては、研修に関わる基本的事項を「いつでも」「どこでも」「何度でも」視聴することができるという利点を生かし、先生方の自主研修や校内研修での活用をはじめ、本センターで実施する研修内容の理解促進や研修における演習時間の確保、さらには研修開始時間の繰り下げによる受講負担の軽減などが期待されます。他県においてもeラーニングの導入が増えつつある中で、本県においてもYeLが先生方の“身近な存在”となり得るよう、今後も利点を最大限生かすための工夫改善を図っていきたいと思います。どうかYeLの趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。



「創立70周年記念講演」

山梨県立博物館館長である、守屋正彦氏（筑波大学名誉教授）による「記念講演」が、「甲斐の伝統や文化に関する教育への誘い」と題し、約300名の県内教育関係者にご参加いただき、開催されました。

講演の中では、「山梨は文化不毛の地と言う人がいるが、どのような根拠で言うのであろう。山梨には素晴らしい歴史・文化資源も多く、優れた逸材が活躍している。その一例としては、夢窓国師とその弟子たちがいる。彼らが京都の大きな禅宗寺院を築いた背景には、甲斐の国の伝統や文化がある。当時は甲斐の国が禅宗の拠点の一つで、夢窓派が日本の禅宗を前に進めたと言ってよい。」という、県内関係者にとっては非常に興味深い言葉もありました。まさしく本総合教育センター創立70周年記念講演にふさわしい、格調高い講演となりました。

今後も本センターでは「やまなし 学びの未来～すべては子供たちの未来のために～」という本研究大会のテーマを具現化すべく、「博学連携」の精神を最大限に生かし、県立博物館とともに山梨教育を前に進めていきたいと考えています。ご協力をよろしくお願いいたします。



教育課題に向き合って

平成30年度一般留学生 畠山 忠

「プログラミング教育とは何か。」それが私の研究の出発点でした。「何を、どんなふうになれば良いのか」そのような現場の実態から、私はプログラミング教育を通じた、「主体的な問題解決における論理的思考力の育成」について研究を行いました。最初は手探り状態でしたが、ライブラリーの豊富な書籍や、指導主事の先生方のご指導などを通し、1つの実践モデルとして、現場に還元できる形をつくりあげることができました。

このような機会を与えて下さった皆様、熱心に指導して頂いた先生方に感謝するとともに、今後は、勤務校や教育研究会の場などを通じ、1年間学んだことを還元していきます。

学び続ける教員を目指して

平成30年度一般留学生 伊藤 竜弥

「もっと生徒の力になりたい。」そんな思いから、私は総合教育センター一般留学生を志望しました。「新学習指導要領に対応した指導と評価の一体化」をテーマに、文献を読み、研修を受ける中で、学校教育全体を捉えつつ研究を深めることができ、今、教育に何が求められているのか、何をすべきなのかを考えることができました。

今回の研修で学んだことを現場に役立てるとともに、これからも学び続け、力量を高めていけるよう努めていきます。ご指導頂いた指導主事の先生方、ご協力頂いた先生方に感謝申し上げます。

本県学校教育の推進者として

調査研究課一般留学生担当

「進んで研究、研修を積み、本県学校教育の推進者としての資質を高め、その振興、発展に資する」ことを目的に、今年度は2名の一般留学生がそれぞれの教科・領域等に関わる今日的な教育課題について研究を行いました。研究協力校・研究協力員、指導主事のご協力とご指導・ご助言により無事に1年間の研修を終え、晴れて修了の日を迎えることとなりました。ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。一般留学生には今回学んだことを基に、さらに実践を重ねるとともに、所属校や研究会等における発表を通して、研究、研修の成果を還元し、本県学校教育の発展に寄与されることを期待します。

お知らせ

2019年度研修会申込手続きについて

2019年度研修会申込事務説明会

日時：2019年4月11日（木） 受付 13:20～13:40

説明会 13:40～16:40

場所：山梨県総合教育センター 大研修室

各校の研究主任（研修担当）の先生方を対象に、2019年度に行われる研修会の申込の仕方について説明を行います。あわせて、今年度より運用開始となる各先生方の研修履歴の確認方法についても説明を行います。



YAMANASHI PREFECTURAL
EDUCATION CENTER

編集発行 山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田1456
電話 055-262-5571
Fax 055-262-5572
発行責任者 所長 斉木 邦彦
発行日 平成31年3月15日